



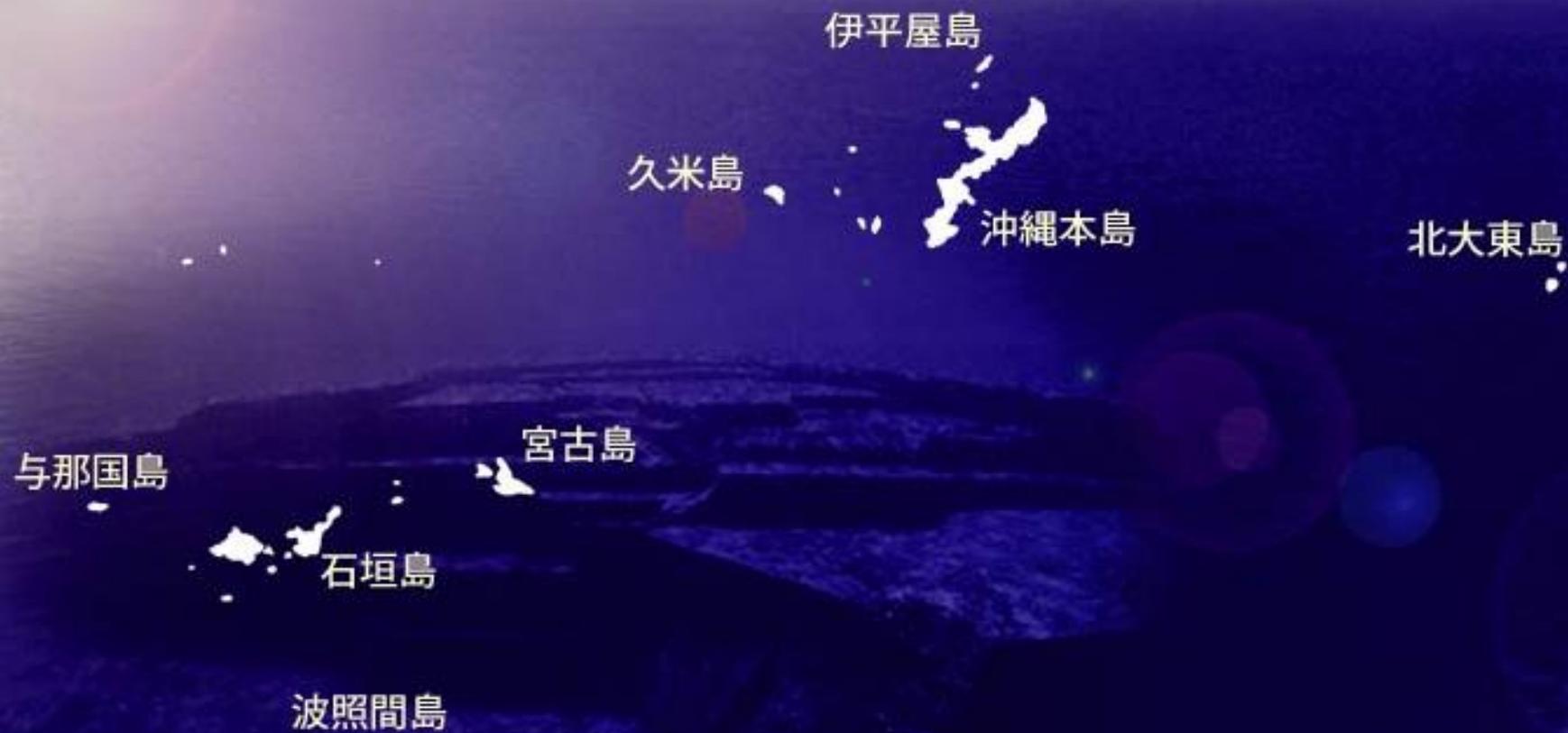
エコツアーリズムは 地域を輝かす魔法の杖

株式会社カルティベート
代表取締役 開（比嘉）梨香



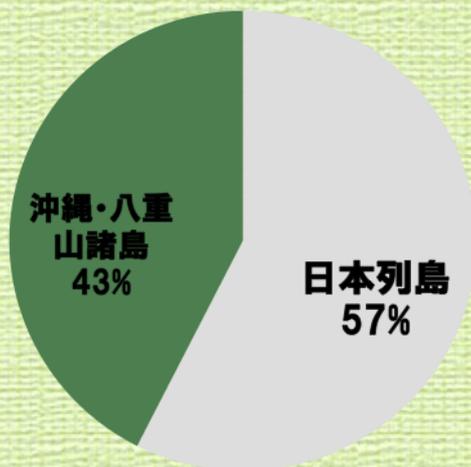
出典: 沖縄県企画部

北緯24~28度 (約400km)、東經122~132度 (約1,000km)
年平均気温：23.1度 年平均降水量：2,040mm
亞熱帯海洋性気候 (熱帯植物の北限、温帯植物の南限)

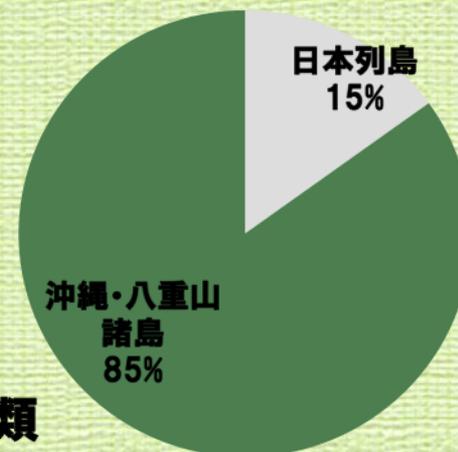


多様な動植物が生息する沖縄

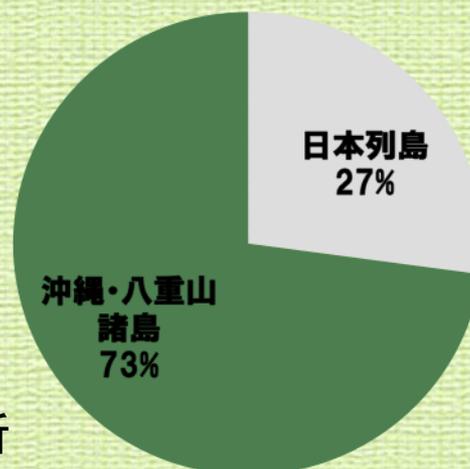
沖縄の自生被子植物種数



沖縄に生息する淡水甲殻類



沖縄に生息する鳥類



出典：環境省那覇自然事務所

株式会社カルティベイト

出典：高良倉吉著「琉球王国」



東アジア諸国と交易していた沖縄

琉球船の主な地域への派遣回数(1425年～1570年)

暹羅（シャム）	58回
満刺加（マラッカ）	20回
仏太泥（パタニ）	11回
爪哇（ジャワ）	6回
旧港（バレンバン）	4回
蘇門答刺（スマトラ）	3回
巡達（スンダ）	2回
安南（ベトナム）	1回

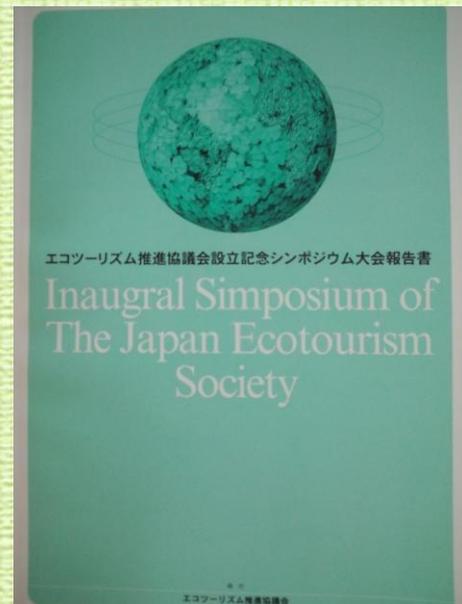
単純合計105回

出典：高良倉吉著「琉球王国」

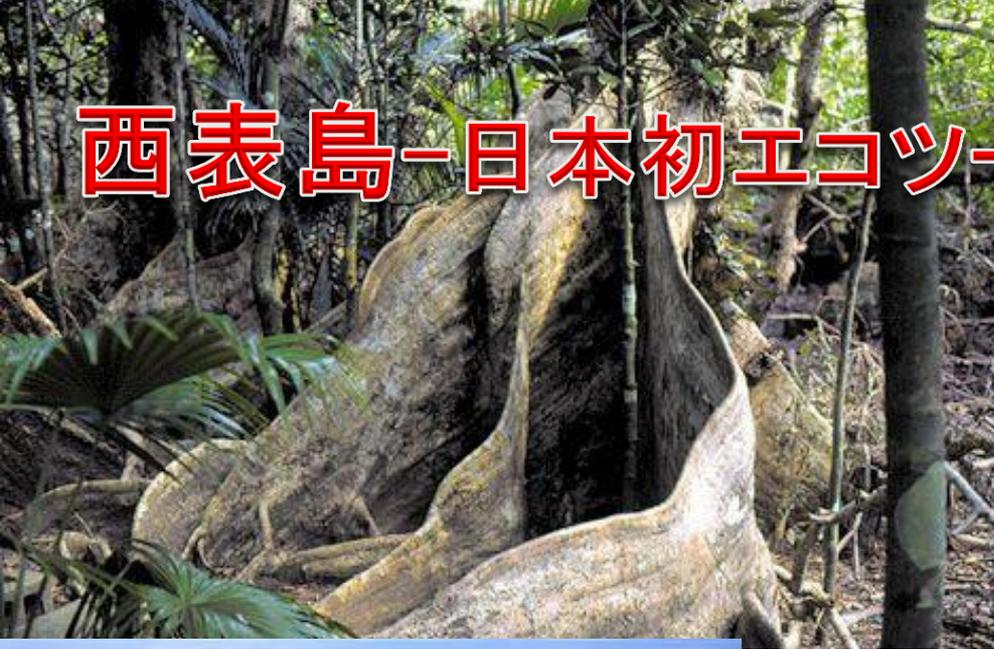
この15年で、
沖縄の観光が変わった



1998年日本エコツーリズム協会設立



西表島-日本初エコツアーリズム協会発足の地



西表島-日本初エコツアーリズム協会発足の地



地域の選択と決断

- ログハウス15棟の計画を変更、集落景観にマッチした木造・赤がわらのコテージへ（干立）
- 公民館(地縁団体)で宿泊施設を運営
- お年寄りがガイド、ホスト役

やんばる(東村)のエコツーリズム

「陸の孤島」といわれ、貧しかった林業の村からの変身



やんばる(東村)のエコツアーリズム

- ・1983年「第1回つつじ祭り」開催
- ・1996年 東村第3次総合計画策定
- ・1998年 国頭・大宜味・東村やんばる3村
モニターツアー実施
- ・2000年 体験滞在交流施設「ふれあいヒルギ
公園」オープン
- ・2002年「村民の森つつじエコパーク」
オープン



やんばる(東村)のエコツーリズム

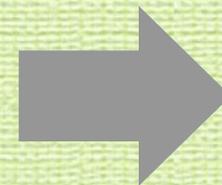


1998年（エコツーリズム協会設立）

修学旅行受入
体験型観光客
観光入域者数

50人

54,854人



2011年

23,828人
約5万人
約27万人

自然体験事業者	10事業者
観光農園	4事業者
体験農家	60事業者
飲食業事業者	20事業者
宿泊業	6事業者

平成22年度～沖縄県離島体験交流促進事業

沖縄本島の小中学生を学年単位で離島派遣
2泊3日で、自然・文化・農漁業体験と交流

2010年「3校5クラス→5離島」

➡ **2013年「28校72クラス→19離島」**

受入組織の発足：3島 民泊事業開始：5島
農漁業体験プログラム始動：7島

<http://ritoutaiken.info/>



平成22年度～沖縄県離島体験交流促進事業

「人は心が動かないと主体的にならない」

「達成感や喜びがないと、主体的な行動は続かない」

「主体的な行動が続かないと地域は活性化しない」





地元の自然・文化・農漁業などの
資源を活かし、住民が自律的・持続的な
観光を推進するエコツーリズムは、
地域を興し輝かす「魔法の杖」！？

地域の宝を次世代に引き継ぐために

やんばる次世代プロジェクト



場所: やんばる学びの森キャンプ場

対象: やんばる3村内5中学校(大宜味村立大宜味中学校、国頭中学校、有銘中学校、高江中学校、東中学校)の1年生、2年生、3年生、計33名



指導: 辺土名高校生13名、3村のPTA会長他大人17名

内容: 事前研修～辺土名高校長による講話～野外炊飯～交流会～カヌー体験、ナイトウォーク～マングローブ・水生生物観察等



地域の宝を次世代に引き継ぐために

やんばる次世代プロジェクト

アンケートより

『自分の中での自然についての考え方が変わって、これからも身近なやんばるの自然を大切にして、将来自分が大人になって次の子供にたくすことができたらいいなと思いました。』（国頭中）

『ぼく達もこれから自然を大切にして、やんばるの森を世界遺産に登録できるようにして、世界からは「世界のやんばる」という名で沖縄県を世界中に広げていきたいです！』（大宜味中）